



幼児教室で育てたい力

幼児教育センター 幼児教室相談員

ある日の幼児教室で、A君と、8枚のカード（笑った顔7枚と怒った顔1枚）の中から1枚違うカードを選ぶゲームをした時のことです。A君はすぐに1枚の怒った顔を選びました。「すぐに分かっちゃったね。」と彼の見分ける力、表情を読み取る力を賞賛しつつ、「A君の園の先生は、どっちの顔をしているの。」と聞いてみると、すかさず「こっち。」と怒った顔を指差しました。えっ？と思いながら「そう。でも、笑った顔の時もあるよね。」と言うと「10位ね。」「怒った顔はどのくらい？」と尋ねると「うーん。100位。」と言い、すぐに「僕がね、怒られることばかりするから。」と屈託なく続けました。『よくないって分かっているけどやっちゃうんだよ。』という呟きが聞こえて来そうな気がしました。比率を分かって言っているとは思いませんが、怒った顔の方がずっと多いと感じているのかもしれない。彼の心に自己否定感（自分の価値を低くみなす感覚）が生まれないことを願いました。

幼児教室では、ゲーム・言葉遊び・製作・小集団の活動等、いろいろな活動を通して子どもたちに満足感や達成感を味わってもらい、自信をもってもらうこと、意欲につなげていくことを最大のねらいとしています。成功したりほめられたりすることで育っていく自己肯定感（自分のあり方を積極的に評価できる感情であり、ありのままの自分をそのままいいと感じる感情）を育てることを大切に考えています。ただ、ほめることは大事ですが、「ほめて育てる」ということについては異論もあります。むやみやたらにほめるのではなく、心から共感できることが大切と考えます。当たり前に来ることも、ほんの小さな成功も、子どもの思いや行動に共感しながらほめて認めるように心がけています。

また、幼児教室では子どもたちが自分で「分かる」「見通せる」「計画できる」ことを目指し成功体験がより多く起こるような工夫をしています。具体例を挙げると活動の始まりと終りに表示プレートを裏返す。道具や遊具の片づけをする。絵カード等を見て時間の流れを把握する。遊びを選ぶ。タイマーを使って時間を意識する。ゲームで負けても、次の機会にまたがんばればよいことに気付く。等があります。

子どもたちはいろいろな活動に取り組みますが、もちろんうまくいかないこともあります。「失敗しちゃった」「できないから嫌だ」「どうせ出来ない」と投げ出しそうになることもあります。失敗が続くと自己肯定感の低下につながるかもしれません。そこで必要なのは「落ち込んでもまた立ち直る力や乗り越える力、自分の可能性を信じる力」を伸ばすことなのではないでしょうか。

幼児教室では、子どもたちに「失敗しちゃった。こまったなあ。」と言っていい事、「分からないから教えて。」「出来ないから手伝って。」と担当や保護者を頼っていいことを知らせています。「まちがいさがし」では見つからないと「ヒント出して。」と要求し、自分で見つけられた満足感を味わいます。製作等で「できない。」とやめてしまいそうになった時には、「ここは難しそうだね。」と気持ちに寄り添いながら出来そうな方法を知らせたり、少しだけ手伝ったりすることで完成を喜ぶことができます。人を頼って成功する体験を積み重ねることが周りの人を信じる力につながるのではないのでしょうか。

子どもが「うまくいかないことがあっても、誰かを頼れば何とかなる」という経験をして「乗り越える力」を蓄えられるように支えられる大人でありたいと思います。

週（あるいは隔週）1度の45分の教室ですが、ここでの経験が子どもたちの毎日に生活にいかされるよう、保護者の皆様や園所の先生方と手を取り合っていきたいと思っています。

